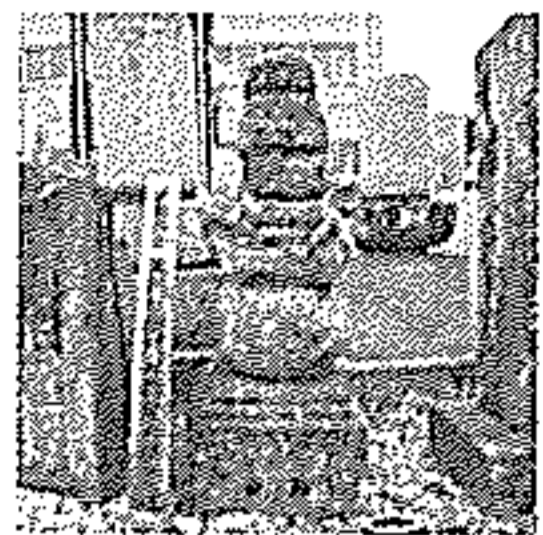


康生いったい

大林寺の矢頭右衛門七供養塔



大林寺(だいらんじ)には赤穂四十七士のひとり矢頭右衛門七(やとうえもしち)の供養塔があります。右衛門七は吉良邸討ち入り後、岡崎藩水野家にお預けとなり切腹。介錯をした杉源助は、あまりに若い右衛門七をあわれみ、日課として高輪泉岳寺に墓参していました。岡崎勤番となってからは、大林寺に供養塔を建て、日々菩提を弔ったのでした。

■岡崎市魚町1丁目6

東岡崎駅周辺

六所神社(ろくしょじんじゃ)



徳川家康公の産土神です。徳川氏とのゆかりは古く、松平氏初代の親氏が奥州塩釜六所大明神を加茂郡に勧請したことに始まります。現在地への創建は、松平氏7代清康が岡崎に居を定めたころのこと。権現造の荘厳な今の社殿は、1634~36年(寛永11~13年)に、徳川3代将軍家光によって造営され、楼門、神供所とあわせ国の重要文化財に指定されています。

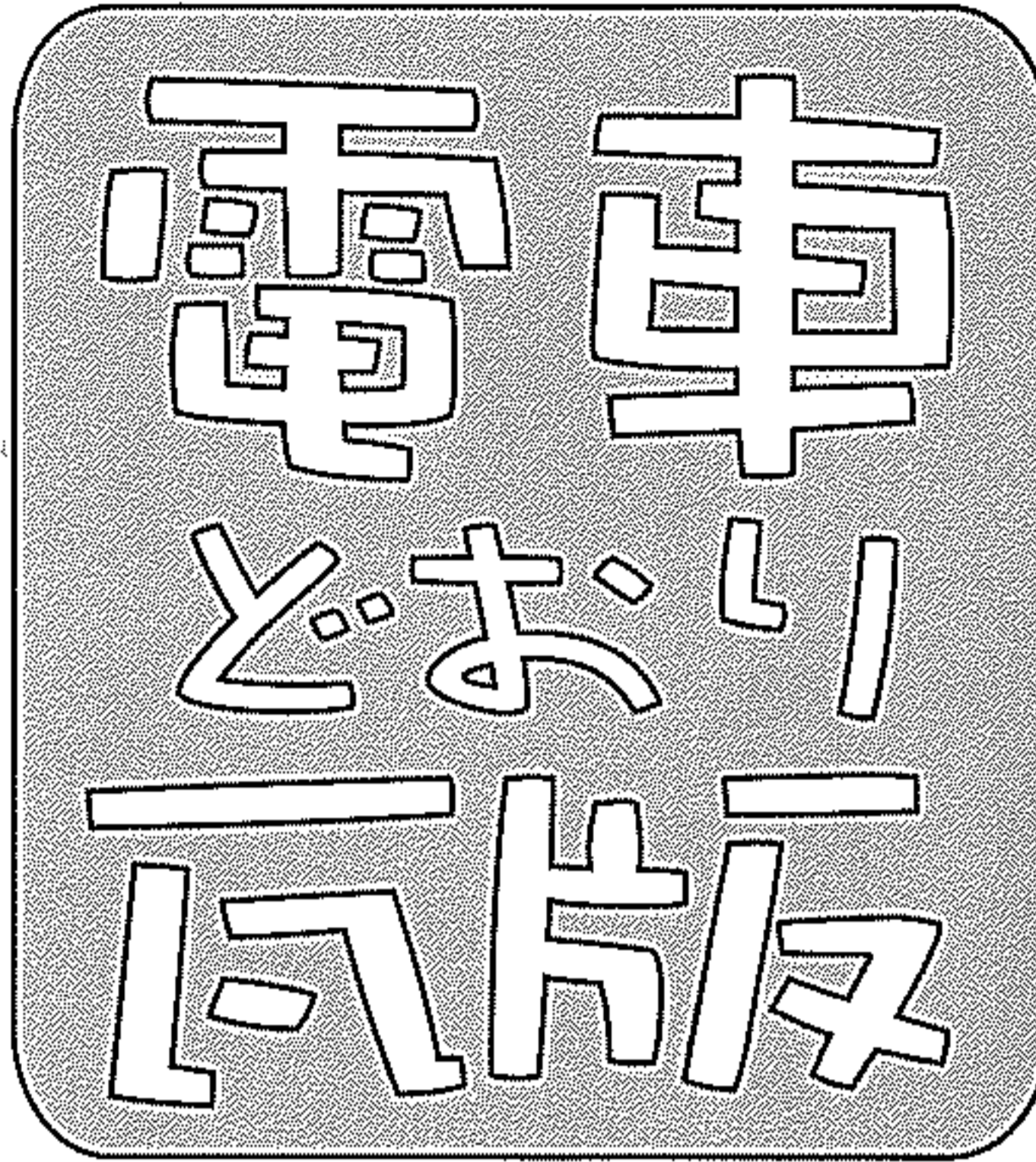
■岡崎市明大寺町耳取44

岡崎の南と北を結んだ市電

岡崎の市電は1898年(明治31年)に、能見、連尺、伝馬の商人たちが出資し、岡崎停車場(JR岡崎駅)から殿橋の南までの間で開業した「岡崎馬車鉄道」が始まりです。明治政府が東海道線の敷設にあたり、1888年(明治21年)、郊外の松林の中に岡崎停車場を開設したのは、本宿の法蔵寺坂の勾配が急で、機関車2輛を連結し牽引しなければ登れないなど、当時の鉄道技術の限界によるものでした。1895年(明治28年)に岡崎商業会議所(岡崎商工会議所)が中心となり、市街地近くへ停車場を移転するよう、明治政府に請願しましたが、実現には至りませんでした。岡崎馬車鉄道は自力で岡崎の経済振興を図る、岡崎財界人の心意気により誕生したのです。1912年(大正元年)に電化され、1923年(大正12年)に井田町まで路線延長されました。



- 発行
電車どおり4商店街
- 本町通三丁目商店街振興組合
- 岡崎銀座商店街振興組合
- 殿橋通発展会
- 岡崎明大寺商店街振興組合
- 協力
岡崎商工会議所
岡崎市観光協会
- 編集協力
三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」
岡崎江戸仲間



2005年(平成17年)8月 創刊号

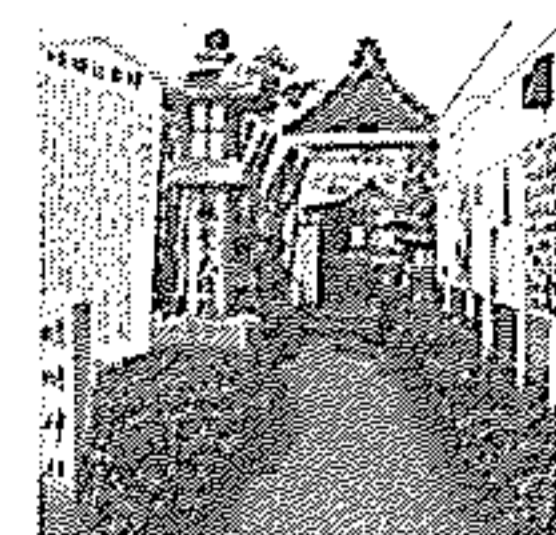
電車どおりの住民が
ご近所のネットワークを活かして
ます歩きを楽しくする
オススメのポイントをご紹介します。

岡崎の歴史は
1155年の11月
江戸時代を
創った歴史が
たくさん
残っています。



本町がいわい

晴明神社(せいめいじんじゃ)

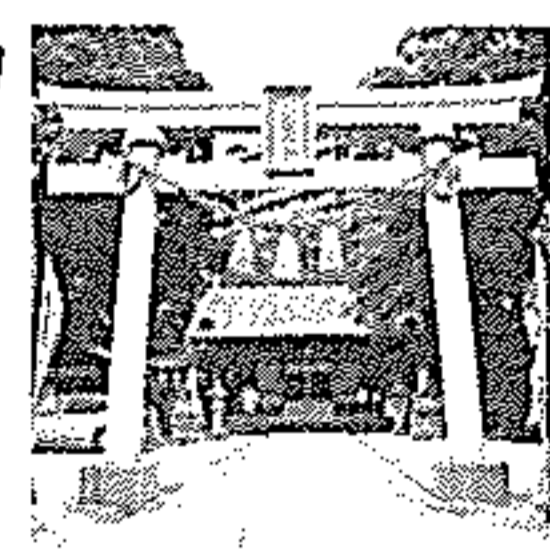


平安のころ、安倍晴明がこの地に道場を開き陰陽道を伝えました。晴明神社は江戸時代に、この道場跡に創建された神社です。また、安倍晴明の掘った井戸から、こんこんと霊水が湧き出し、霊水を求める人が後を絶たなかったと伝えます。この井戸が江戸時代の銘水「岡崎七つ井」の一つ「晴明井」です。境内のパネルで、安倍晴明と陰陽道について色々を知ることができます。

■岡崎市本町通3丁目5

殿橋のたもと

菅生神社(すごうじんじゃ)



毎年8月の第1土曜日に開催される岡崎の夏の風物詩「岡崎観光夏祭り花火大会」は、江戸時代から続く菅生神社の祭礼が起源となっています。銚舟から打ち出される錦魚花火は、岡崎独自に進化を遂げた伝統の技術。乙川の水面を色とりどりに染め上げます。棧敷での花火見物は江戸情緒たっぷり、全国的にも珍しいものです。氏子の人たちの練り込み行列も必見です。

■岡崎市康生町630-1